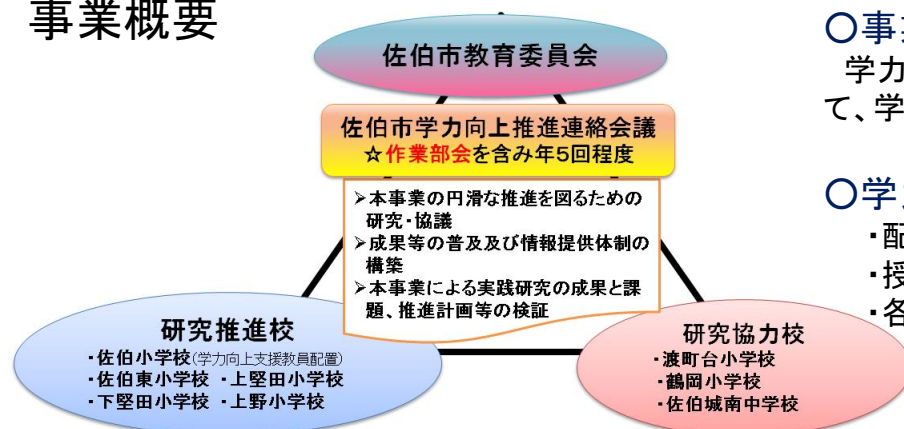


# 平成22年度佐伯市学力向上実践研究事業報告書(大分県市町村学力向上戦略支援事業の活用)

佐伯市では、平成22年度に大分県の市町村学力向上支援事業により学力向上支援教員(1名)の配置を受け、複数の学校が協力・連携して学力向上に取り組む実践的研究(佐伯市学力向上実践研究事業)を進めてきました。

学力向上支援教員は配置校での「わかる授業」づくりだけでなく、各推進校を巡回し、各校の授業を参観するとともに、研究主任と協議したり、校内研修に参画したりと各学校の研究推進をコーディネートしてきました。また、各学校では、校内での授業の見合いや学校の垣根を越えた学校間の授業公開を行いながら、「わかる授業」づくりに努めてきました。5校の推進校を中心とした取組の様子等を報告します。

## 事業概要



## ○事業概要

学力向上支援教員が学校間を結び、複数の学校が協力・連携して、学力向上に係る取組を推進 → 面としての広がり

## ○学力向上支援教員の活動例

- ・配置校において、15時間程度の授業を担当
- ・授業公開を行う等、「わかる授業」づくり等に関する情報発信
- ・各推進校を訪問し、取組の方向性や実践について協議や助言

## 取組実績

### ○学力向上支援教員による推進校訪問

4月～2月 38回

### ○学校間での授業公開

6月～2月 20回 参加教員数延べ400人以上

### ○佐伯市学力向上推進連絡会議(作業部会含む)

4月～3月 7回

市内全域に授業公開をする学力向上支援教員(H22.10.26)



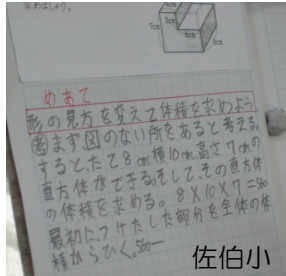
推進校5校による研究発表会の様子(H23.2.8)

# 推進校での共通の取組＝「わかる授業」の実現

子どもたちが意欲を持って参画できる授業の創造

学習環境の整備、学びの足跡

問題とめあてで見通しをもたせる



## ○事前

児童生徒の課題分析、授業規律の確立等

## ○授業

課題の確認

＝授業のねらいを明確にし、本時の課題を提示

自分の考えをもつ

＝考える時間を確保し、課題に対する考えを持たせる

考えを交流する

＝各自の考えを交流し、考えを広め、深める

まとめる

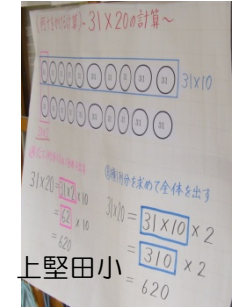
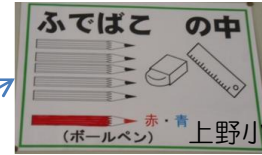
＝発表を生かし、授業のポイントをまとめる

〔練習問題〕  
振り返り

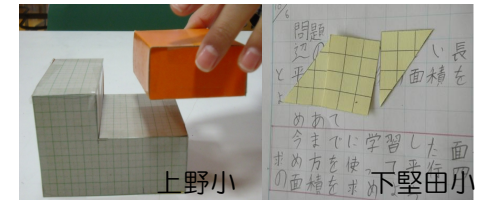
＝この時間にわかったことを確認、評価

- ※ノート指導 … 黒板との連動、授業の足跡を残す

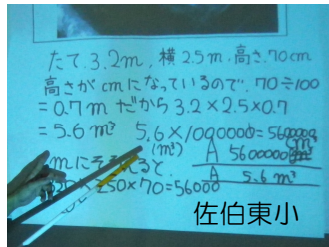
机上準備の指導



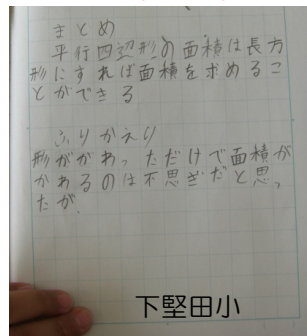
具体物やヒントカード等も活用



ICT機器の活用



まとめとふりかえり



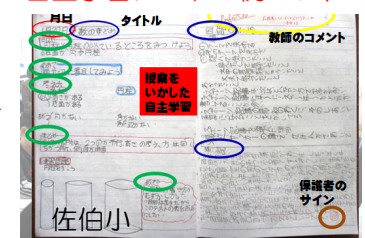
## ○事後

児童生徒の理解度を評価し、家庭学習や補充学習等で定着を図る

考えを伝え合う児童



自主学習ノートの例 5年



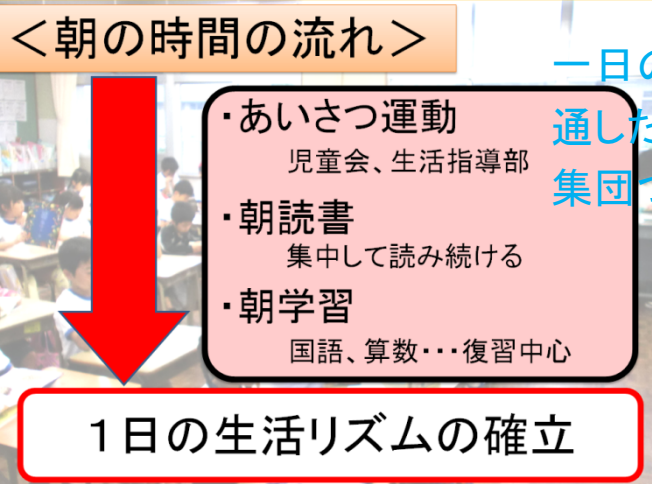
1時間の中で学んだことを活用して考える授業(下堅田小)



ICTを活用する授業(佐伯東小)



学力向上支援教員と協力した各校の特色ある取組



一日の生活リズムを通じた学びに向かう  
集団づくり  
(佐伯小)



ワークショップ型の授業づくり研修(上堅田小)



少人数での指導(上野小)

# 平成22年度の取組のまとめ

## ○推進校5校にみられる取組の成果

### 学校では

- 学力向上支援教員の巡回により、同じ課題に取り組む他校の実践やその効果等について、情報が提供され、よいところを積み上げながら取組を進めることができた。
- 学力向上支援教員と研究主任の協議により、課題や改善の方向等の確認をしながら、各校の特色を出しつつ、共通の取組を進めることができた。
- 各学校では、校内で共通理解を図りながら、児童と見通しを共有する授業づくりや授業と家庭学習を連動させた指導等、さまざまな取組を組織的に進めることができた。
- 児童一人一人が自分の考えを持てるように、ヒントカードや学習掲示等、学校全体で、さまざまな取組ができた。

### 児童生徒は

- 「算数の授業が大切だ」「算数の授業がよくわかる」とする児童が増えた。
- 算数の授業で問題の解き方や考え方がわかるノートを残すようになった。
- 進んで課題に取り組み、考えたことを説明することが楽しいと感じる児童が増えた。
- 説明を聞いて納得したり、自分の考えを変えたり、深めたりと、学び合う姿が見られた。
- 平日の家庭学習の時間が増えてきた。

## ○今後の課題、平成23年度に向けて

- ◆ 「問題」と「めあて」を提示し、視点や手立てを示すことで、児童が見通しをもって授業にのぞみ、自分の考えを説明することができており、思考力、判断力、表現力の基礎を培うことにつながっている。今後はさらに、問題から自分で情報を取り出し、わかっていること・求められていること・条件等を確認し、これらを組み合わせ、何をどのように使って課題を解決し、その過程をどのように論理立てて説明するか等という自ら考える力がどのようにしているかを検証していくことが求められる。
- ◆ 授業の記録としてのノートがとても上手にとれるようになってきており、黒板とノートが連動してきた。今後は、授業で取り扱うさまざまな情報について、何を、どこまでノートに書いていくか等を確認し、系統的な指導へと結びつけていくことが求められる。